

科目ナンバリング		P-GOV02 64D11 LJ45										
授業科目名 <英訳>		地域活性化論 Regional Vitalization Studies				担当者所属・ 職名・氏名		大和リース(株) 代表取締役会長 大和リース(株) 民間活力研究所所長 (株)グローバルトゥエンティワン 代表取締役社長			森田 俊作 反町 雅史 松村 勉	
配当 学年	1・2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語	
【授業の概要・目的】												
【大和リース寄附講義】 経済社会の成熟化が進み、少子高齢化、グローバル化、高度情報化、財政状況の逼迫化、価値観の変化・多様化など自治体を取り巻く環境は激変してきている。そうした中、人口減少時代に突入し、地域間の競争はより厳しさを増してきており、地方創生がより大きなテーマとなってきた。本講義では毎回ゲスト（行政首長、行政政策担当者、民間専門家等）を招き、地域活性化に関する総論（方法論、地域活性化の実例）や各分野（医療・福祉、経済、産業、教育等）の講演の後、受講生とのディスカッションを行い、地域創生、地域イノベーションに必要な方策と理論の追求を行うものとする。												
【到達目標】 ゲスト講師（行政首長、行政政策担当者、民間専門家等）から話を聴き、ディスカッションを行うことにより、地域活性化をめぐる現状、課題、政策的知見を共有し、その課題解決や政策立案ができる能力を養う。												
【授業計画と内容】 本講義は、おおよそ次のようなテーマ(例)に即して展開する。但し、ゲスト講師のスケジュールや意向により、内容は流動的に変更する。 1、総論 2、公民連携での街づくり 3、地域の個性や資源を生かした活性化事例研究I（兵庫県のふるさと創生事業など） 4、地域の個性や資源を生かした活性化事例研究II（大阪なんば地区の地域イノベーションなど） 5、観光プロモーションによる活性化事例研究I（有馬温泉の公民連携プロモーションなど） 6、観光プロモーションによる活性化事例研究II（浜松市の地域ブランディングなど） 7、M I C E などによる活性化事例研究I（東京オリンピック・パラリンピック活用地域活性化など） 8、M I C E などによる活性化事例研究II（民間活力を活かした地域アートマネジメントなど） 9、産業集積による活性化事例研究I（中国浙江省の産業集積による地域プロモーションなど） 10、産業集積による活性化事例研究II（神戸市の医療産業都市構想など） 11、産業集積による活性化事例研究III（シリコンバレーなどICT等ベンチャー投資など） 12、公民連携での活性化事例研究I（フレスポ高山など商業施設によるNPO協働型地域活性化など） 13、公民連携での活性化事例研究II（グランフロント大阪の公民連携プロモーションなど） 14、公民連携での活性化事例研究III（淡路市の有休施設活用など） 15、まとめ 上記は過去の例であり、ゲストにより内容は変動する。 (過去のゲスト例) 神戸市長、浜松市長、淡路市長、加古川市長、生駒市長、箕面市長、国土交通省、復興庁、民間コンサルなど、省庁、自治体、企業等の政策担当者、研究者など。												
----- 地域活性化論(2)へ続く												

地域活性化論(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への出席、授業中での積極的な発言、レポートによって評価する。

【教科書】

使用しない

講義は、毎回資料等を配布しておこなう。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

(関連URL)

<http://www.nikkeibp.co.jp/ppp/>(大和リースの支援のもと日経BP社が運営する公民連携最前線)

【授業外学修(予習・復習)等】

ゲスト講師を多く招くので、ゲスト講師について基本的な知識を事前に得ておくこと。(経歴、実績、著書・論文内容など) 基本的に毎回、ゲスト講師への質問などを求める。

(その他(オフィスアワー等))

アポイントにより随時受け付ける。また、希望、相談等がある場合、授業終了時に受け付ける。
matsumura@g21group.com 松村迄

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。